

## 第2章

---

# 本県の医療を 取り巻く環境



## 第1節 人口の動向

### 1 総人口

本県の総人口は、昭和62年頃（約83万6千人）から減少傾向が現れ、平成22年では約79万人となっています。今後の総人口の見通しについては、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（平成20年12月推計）によれば、総人口は引き続き減少基調を維持し、平成37年には69万6千人と70万人をきる水準にまで減少することが見込まれています。

保健医療計画の策定に当たっては、国レベルとの整合性を図ること等の観点から、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口をベースに個々の施策を計画していくものとします。

#### 年齢3区分別人口の推移と見通し

（単位：千人）

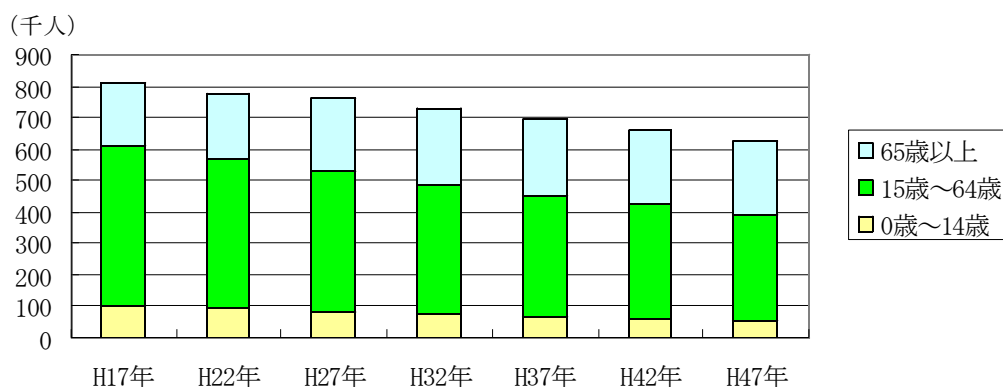
区 分	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
0歳～14歳	106	97	85	75	68	62	57
15歳～64歳	507	472	444	412	386	362	337
65歳以上	197	210	232	243	242	236	228
75歳以上	98	114	121	127	143	149	147
総 計	810	785	762	730	696	659	622

資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

（注1）75歳以上の数値は、65歳以上の再掲である。

（注2）国勢調査における総人口には、年齢不詳を含む。

#### 総人口の推移と見通し



### 2 人口構成

本県の人口の年齢別構成は、0～14歳、15～64歳の構成比が減少しており、平成22年には、それぞれ12.4%、60.6%となっています。一方、65歳以上の高齢者の割合は全国を上回るペースで急速に増加しており、昭和45年には9.6%であったものが、平成22年には27.0%（全国平均は23.0%）にまで上昇し、全国順位で8番目に高い水準となっています。

また、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（平成20年12月推計）によれば、今後も引き続き、65歳以上人口の割合は増加を続け、平成27年（西暦2015年）には、23万2,000人、構成比で3割を超えると見込まれています。

### 年齢3区分別人口の推移と見通し

(単位:千人(%))

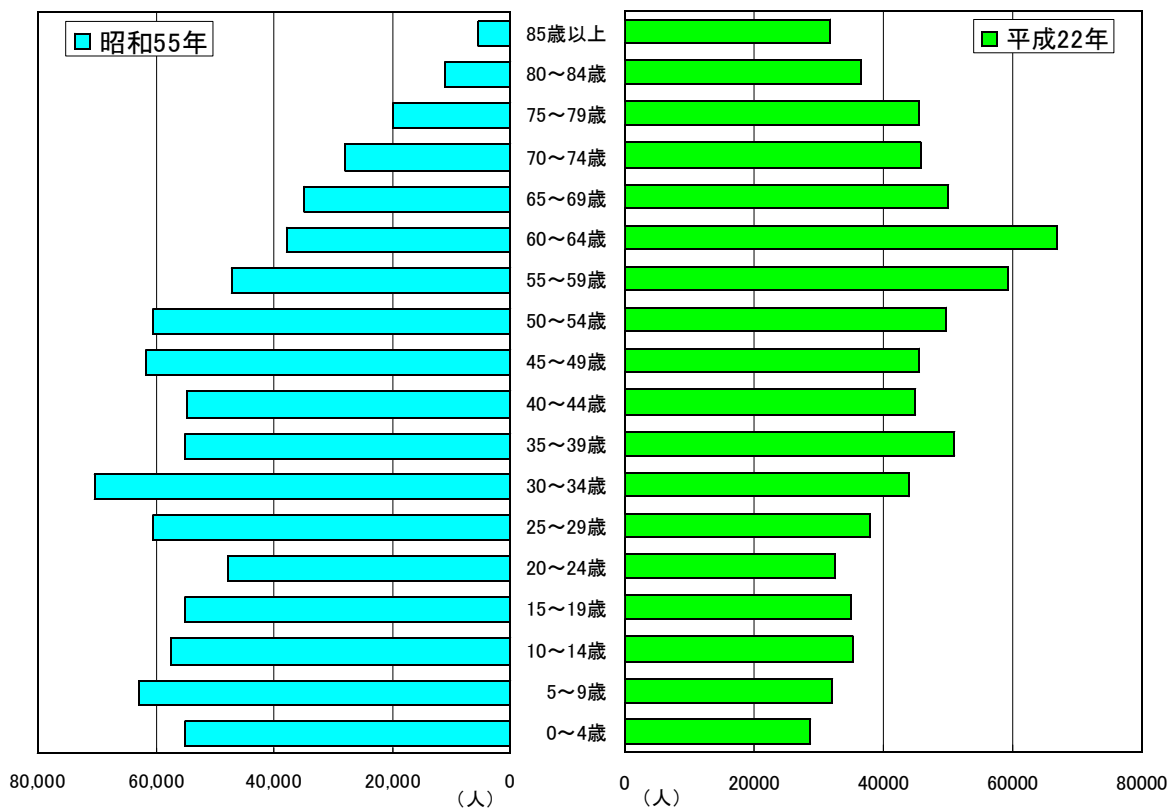
区 分		平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	全国	127,768 (100.0)	128,057 (100.0)	125,430 (100.0)	122,735 (100.0)	119,270 (100.0)	115,224 (100.0)	110,679 (100.0)
	徳島県	810 (100.0)	785 (100.0)	762 (100.0)	730 (100.0)	696 (100.0)	659 (100.0)	622 (100.0)
0歳～14歳	全国	17,585 (13.8)	16,803 (13.2)	14,841 (11.8)	13,201 (10.8)	11,956 (10.0)	11,150 (9.7)	10,512 (9.5)
	徳島県	106 (13.1)	97 (12.4)	85 (11.2)	75 (10.3)	68 (9.8)	62 (9.4)	57 (9.1)
15歳～64歳	全国	84,422 (66.1)	81,032 (63.8)	76,807 (61.2)	73,635 (60.0)	70,960 (59.5)	67,404 (58.5)	62,919 (56.8)
	徳島県	507 (62.6)	472 (60.6)	444 (58.3)	412 (56.4)	386 (55.5)	362 (54.9)	337 (54.2)
65歳以上	全国	25,761 (20.2)	29,246 (23.0)	33,781 (26.9)	35,899 (29.2)	36,354 (30.5)	36,670 (31.8)	37,249 (33.7)
	徳島県	197 (24.4)	210 (27.0)	232 (30.5)	243 (33.3)	242 (34.7)	236 (35.7)	228 (36.7)
75歳以上	全国	11,639 (9.1)	14,072 (11.1)	16,452 (13.1)	18,737 (15.3)	21,667 (18.2)	22,659 (19.7)	22,352 (20.2)
	徳島県	98 (12.1)	114 (14.5)	121 (15.9)	127 (17.3)	143 (20.5)	149 (22.7)	147 (23.6)
老年人口割合の全国順位		8	8	7	6	10	11	13

資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

(注1) 75歳以上の数値は、65歳以上の再掲である。

(注2) 国勢調査における総人口には、年齢不詳を含む。

### 徳島県の人口構造の変化（昭和55年、平成22年）



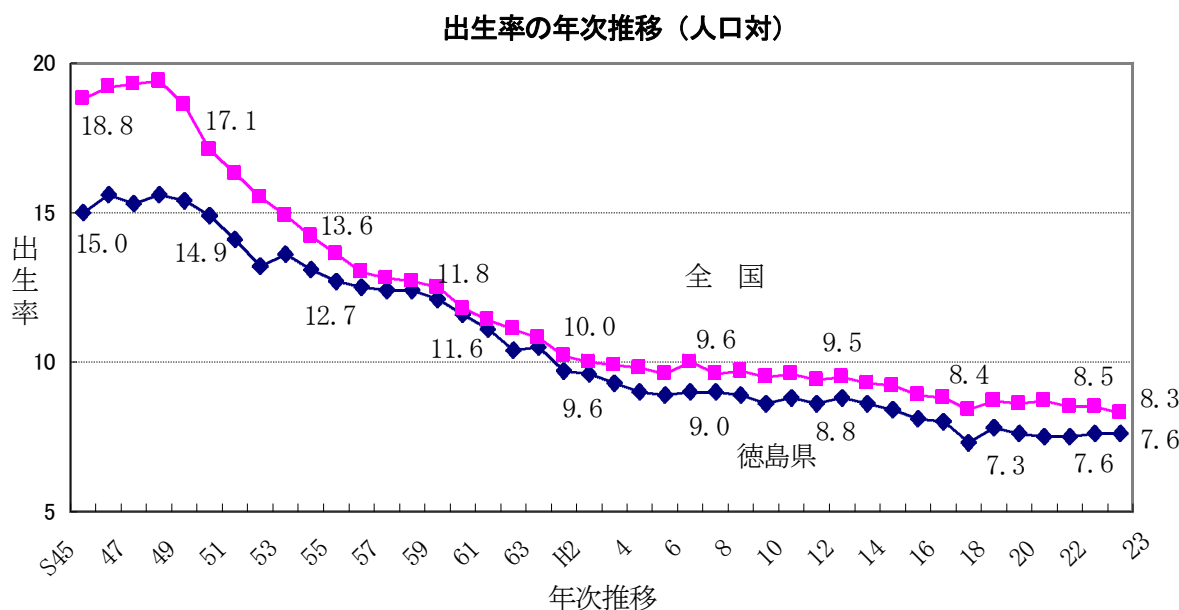
### 3 人口動態

#### (1) 出生率

本県の出生率は昭和48年の15.6（人口千対）をピークにして、その後下降傾向にあり、平成17年には7.3と戦後最低の値となった後も低い水準で推移し、平成23年には7.6となっています。

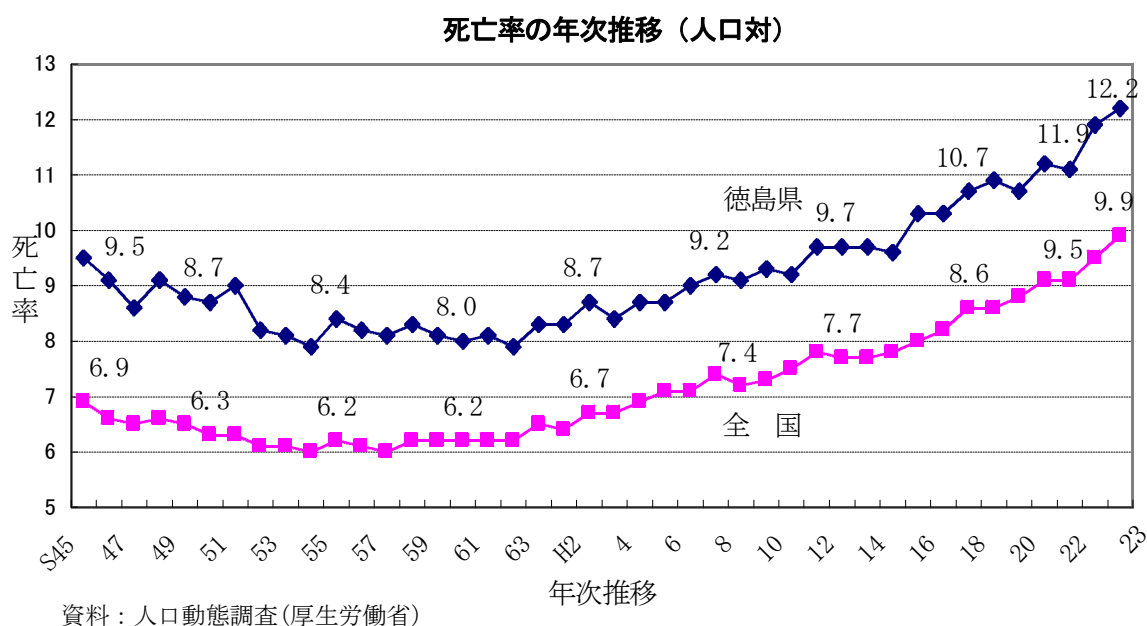
全国もほぼ同様の傾向にありますが、平成23年の全国平均は8.3と、本県の値は全国値より若干低い値で推移しており、本県の順位は全国で35位となっています。

このような出生率の低下は我が国全体の問題であり、この背景としては出産適齢女子人口の減少、価値観の多様化、景気の低迷等、様々な要因が考えられます。



#### (2) 死亡率

本県の死亡率は、平成15年以降、10（人口千対）を超える水準で推移しており、平成23年には12.2と全国平均の9.9を大きく上回り、全国で11番目の水準となっています。本県の死亡率が高い原因は様々考えられますが、高齢化率が全国平均を上回っていることが大きく影響していると思われます。



年齢構成で大きく影響を受ける死亡率を補正するため、年齢調整死亡率でその推移を見ますと、死亡状況は年々改善されてきているものの、男女とも概ね全国平均を若干上回る水準で推移しており、全国順位では、平成17年が、男性18位、女性13位、平成22年では男女とも全国18位という水準となっています。

### 年齢調整死亡率の推移

(人口10万対)

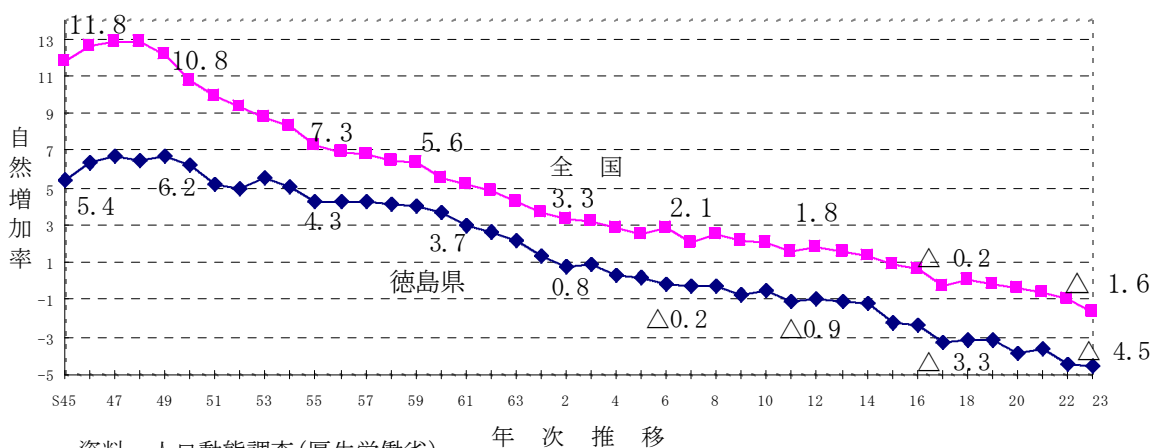
区分		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
徳島県	男	987.6	859.9	782.9	727.1	647.4	608.8	552.3
	女	623.4	469.2	443.1	381.0	337.2	304.5	277.8
全 国	男	923.5	812.9	747.9	719.6	634.2	539.2	544.3
	女	579.8	482.9	423.0	384.7	323.9	298.6	274.9

資料: 人口動態調査(厚生労働省)

(注) 都道府県別の年齢調整死亡率は、5年毎に公表。

### (3) 自然増加率

#### 自然増加率の年次推移(人口千対)



出生数から死亡数を引いた自然増加数を人口千対で示した値が自然増加率です。本県の自然増加率は、少子高齢化を背景として全国より低い水準にあり、低下を続けています。

平成6年以降はマイナスの値を示す自然減の状態が継続しており、平成23年には△4.5となっています。

自然増加率は徳島市を中心とした県東部で比較的高い値を示していますが、県南部及び県西部の山間部等、高齢化の進む地域で低い値を示しており、人口の社会減に加えて自然減による一層の過疎化が進行しています。

### (4) 乳児死亡率、新生児死亡率及び周産期死亡率

全国と同様、本県でも母子保健指標は戦後急速に改善され、年により多少の増減はあるものの、傾向としては低下を示しています。

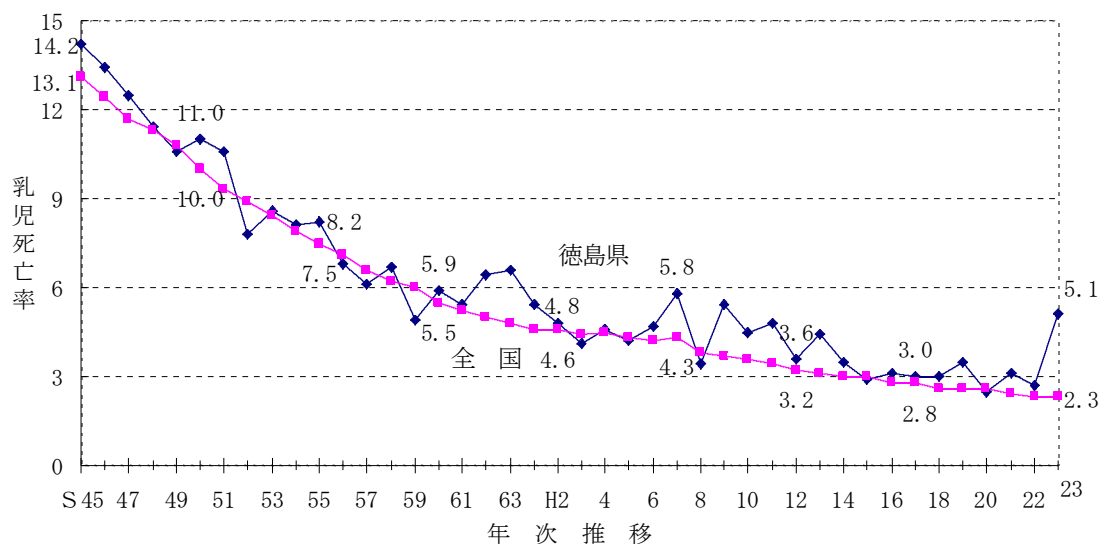
まず生後1年未満の死亡を示す乳児死亡率は、平成23年には5.1（出生千対）で、全国平均の2.3を大きく上回り、全国で第1位の高い数字になっています。

生後1週未満の死亡を示す早期新生児死亡率についても、平成23年では2.0（出生千対）で、全国平均の0.8を大きく上回り、全国1位となっています。

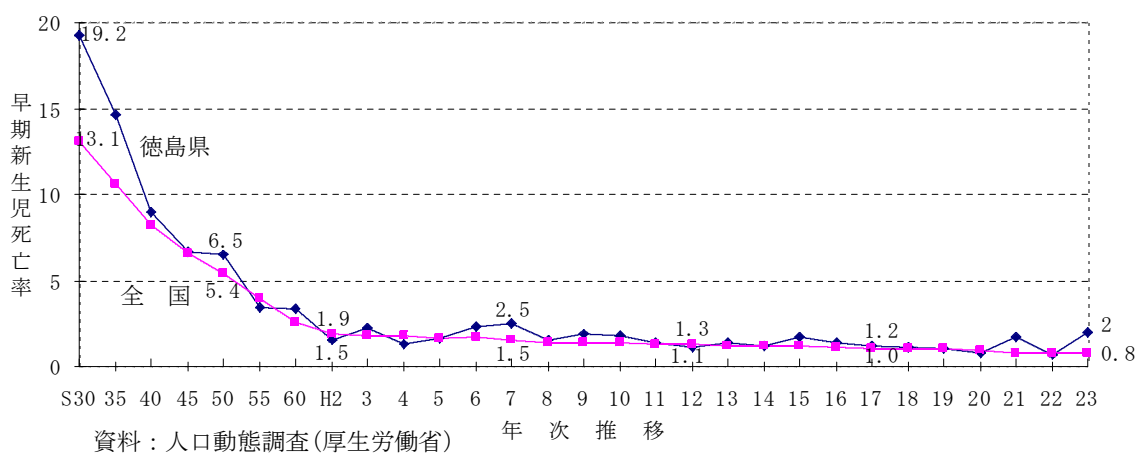
また、妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の死亡を合わせた周産期死亡率については、平成23年で4.6（出産千対）と全国平均の4.1より高く、全国で9番目となっています。

妊娠満22週以後の死産率については、平成23年で2.5（出産千対）と全国平均の3.3より低く、全国で42番目となっています。

乳児死亡率の年次推移(出生千対)

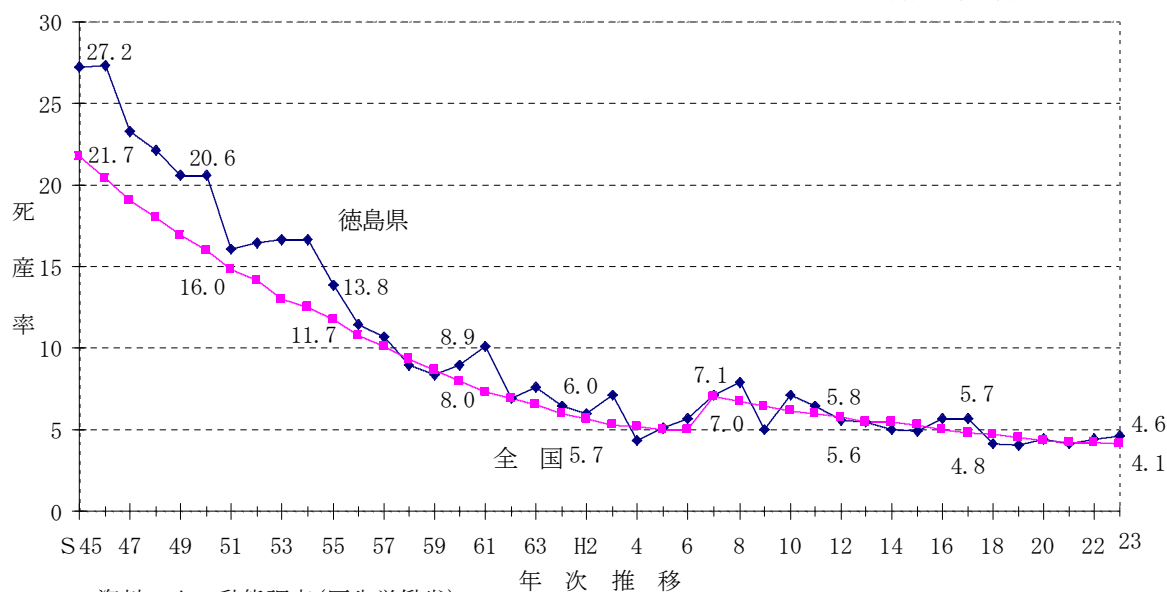


早期新生児死亡率の年次推移(出生千対)



## 周産期死亡率の年次推移

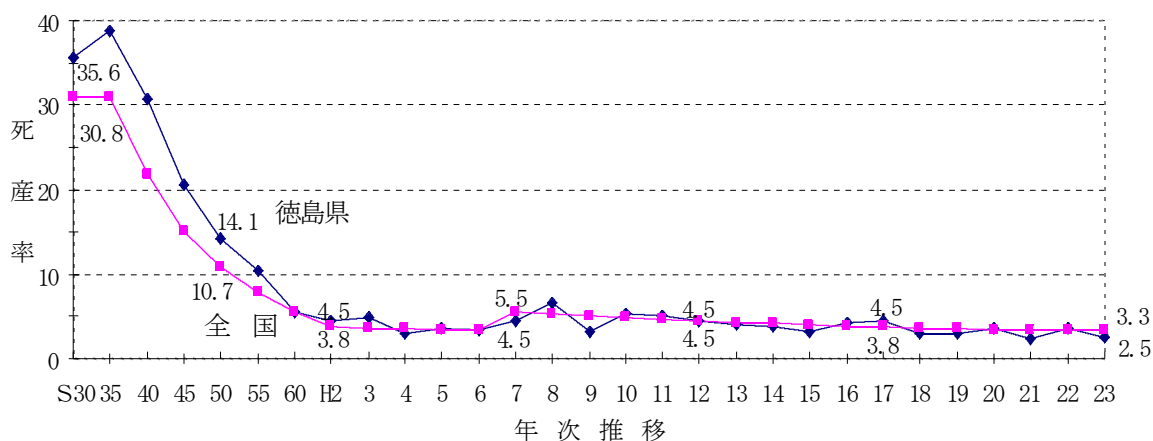
平成6年までは出生千対  
平成7年以降は出産千対



資料：人口動態調査(厚生労働省)

## 妊娠満22(28)週以後の死産率

平成6年までは妊娠満28週以後  
平成7年以降は妊娠満22週以後



資料：人口動態調査(厚生労働省)

## (5) 平均寿命

### 年次別平均寿命

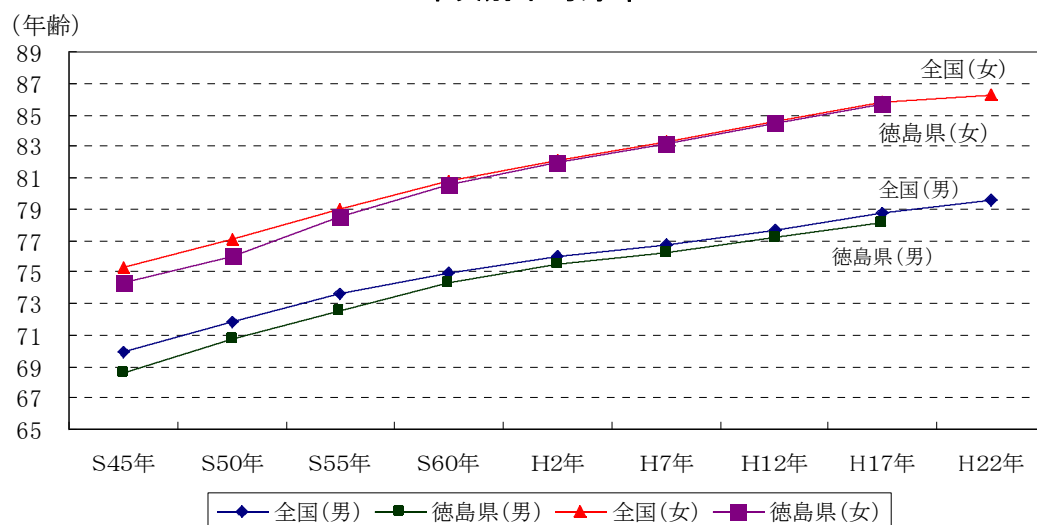
	S45年	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
全国(男)	69.84	71.79	73.57	74.95	76.04	76.70	77.71	78.79	79.55
徳島県(男)	68.56	70.71	72.54	74.35	75.47	76.21	77.19	78.09	
全国(女)	75.23	77.01	79.00	80.75	82.07	83.22	84.62	85.75	86.3
徳島県(女)	74.30	76.00	78.48	80.56	81.93	83.17	84.49	85.67	

資料:生命表(厚生労働省)

(注)平成22年の都道府県別は未公表。



## 年次別平均寿命



全国と同様、本県でも平均寿命は大きな伸びを示し、男女とも昭和45年に比べると10歳程度長くなっています。

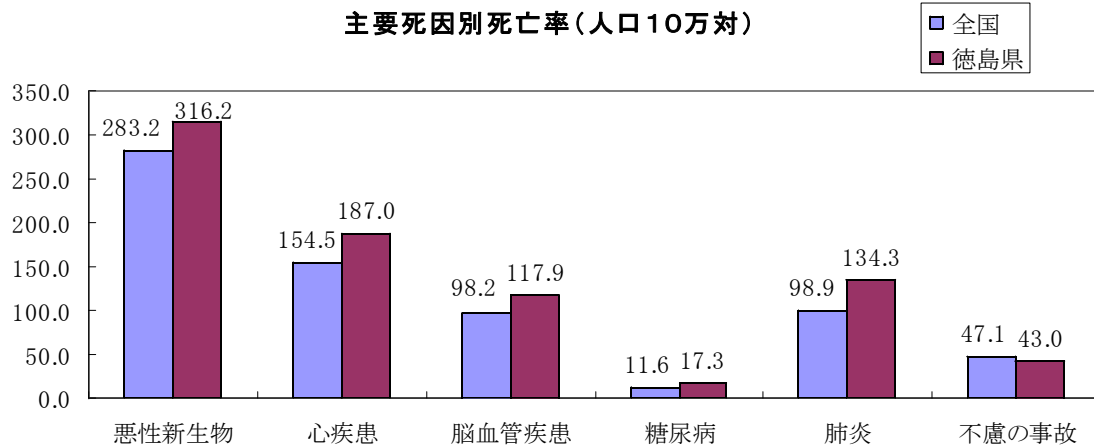
徳島県における男性の平均寿命については、昭和45年には、68.56歳で全国で36位でしたが、平成17年には78.09歳となり、全国で39位となっています。

一方、徳島県における女性の平均寿命は、昭和45年には74.30歳であり、全国で43位でしたが、平成17年には85.67歳となり、全国で30位となっています。

## 第2節 疾病の動向

### 1 死因

死因別に死亡率をみると、全国と同様、悪性新生物で死亡する人が増加傾向にあり、心疾患、脳血管疾患の3大死因で総死亡数の51.1%（平成23年）を占めています。



資料：平成23年 人口動態調査（厚生労働省）

### 10大死因による死亡者数及び死亡率

平成23年

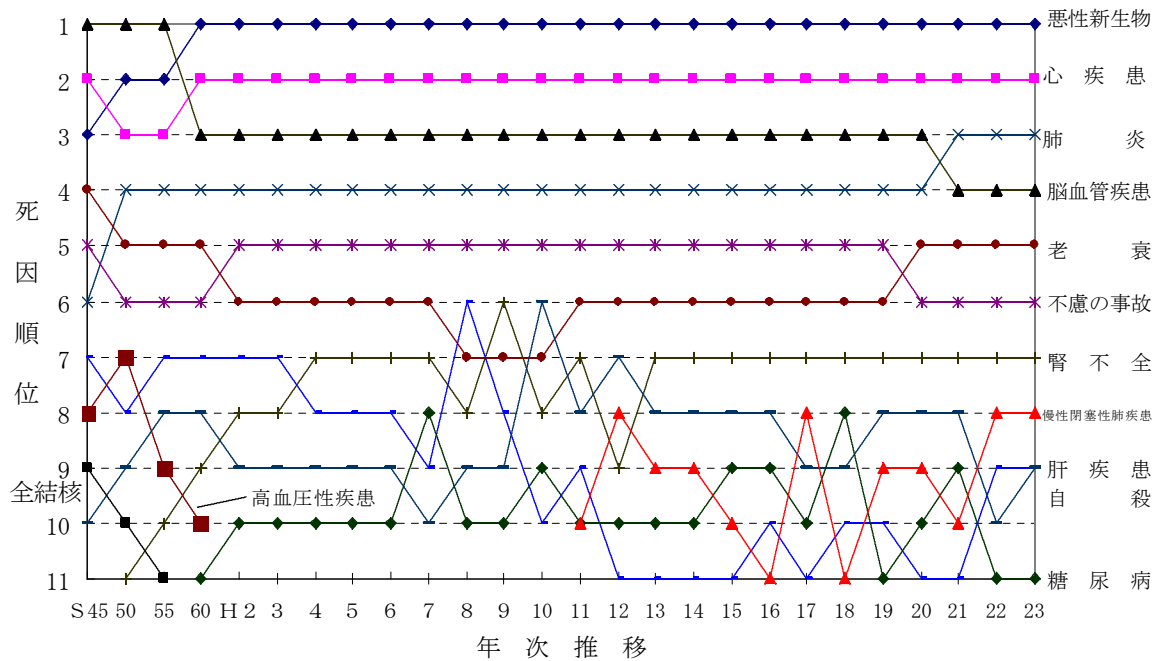
死 因		徳島県				全国		
		死亡者数	占有率	死亡率	全国順位	死亡者数	死亡率	死因順位
総死亡者数		9,435	100.0	1,215.9	11	1,253,066	993.1	—
1	悪性新生物	2,454	26.0	316.2	18	357,305	283.2	1
2	心疾患	1,451	15.4	187.0	16	194,926	154.5	2
3	肺炎	1,042	11.0	134.3	7	124,749	98.9	3
4	脳血管疾患	915	9.7	117.9	19	123,867	98.2	4
5	老衰	454	4.8	58.5	13	52,242	41.4	6
6	不慮の事故	334	3.5	43.0	14	59,416	47.1	5
7	腎不全	217	2.3	28.0	7	24,526	19.4	8
8	慢性閉塞性肺疾患	148	1.6	19.1	3	16,639	13.2	9
9	肝疾患	146	1.5	18.8	1	16,390	13.0	10
9	自殺	146	1.5	18.8	45	28,896	22.9	7

資料：平成23年 人口動態調査（厚生労働省）

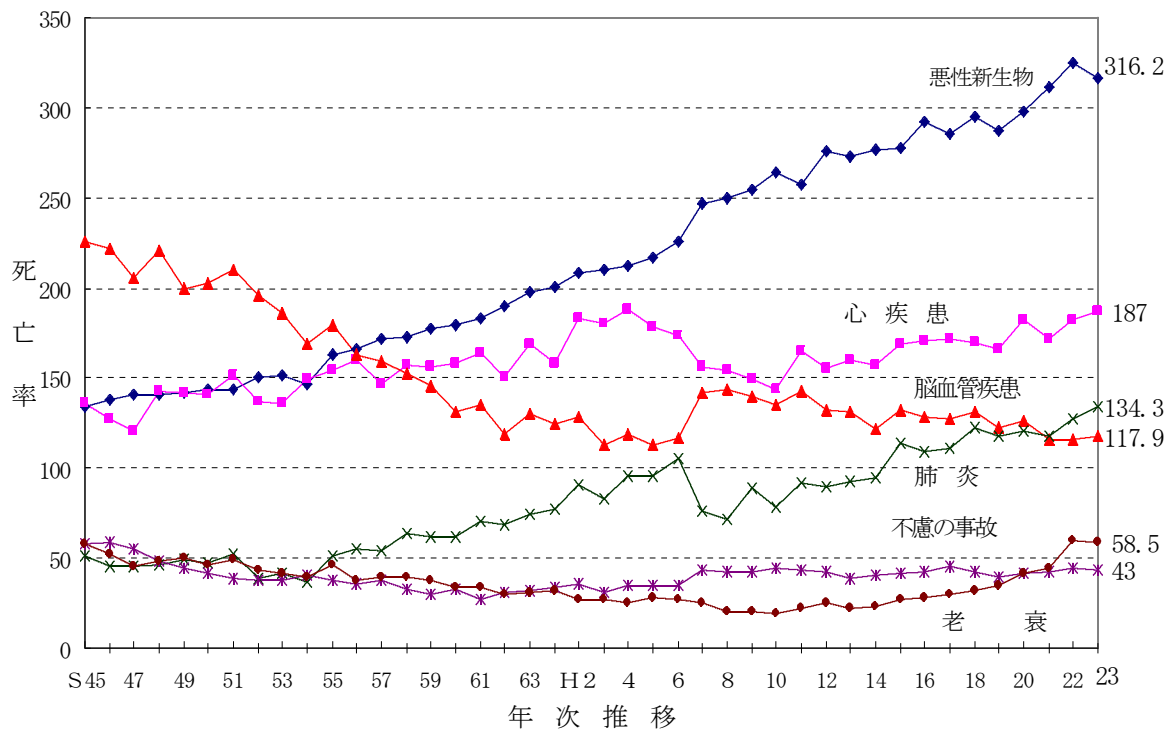
（注）死亡率は人口10万対

本県の死因別死亡率の全国における状況（平成23年）をみると、10大死因の中で、8つの死因が全国平均より高くなっています。また、肝疾患が全国で1番高い死亡率となっているほか、本県で11番目の死亡率である糖尿病（死亡率：17.3）についても、全国で1番高い死亡率となっています。

死因順位の年次推移



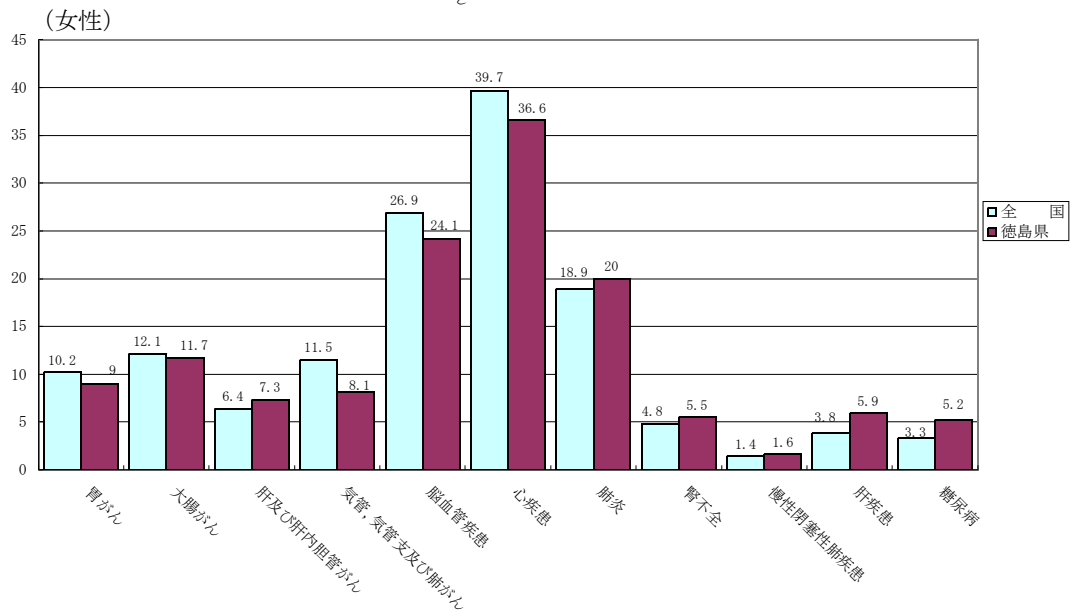
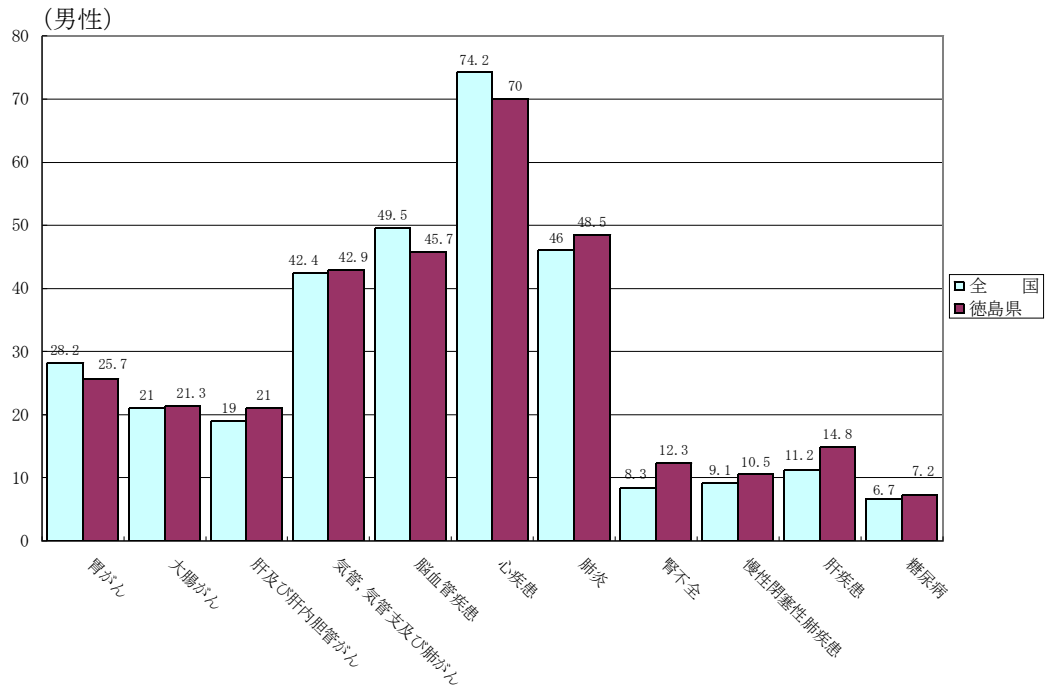
主要死因による死亡率の年次推移(人口10万対)



資料：平成23年 人口動態調査（厚生労働省）

死因の順位は、昭和58年以降、1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患という順位が定着していましたが、平成21年から3位と4位が逆転し、肺炎が3位となっています。

平成22年 死因別年齢調整死亡率（人口10万対）



平成22年 死因別年齢調整死亡率（人口10万対）

(男性)

	悪性新生物				脳血管疾患	心疾患	肺炎	腎不全	慢性閉塞性肺疾患	肝疾患	糖尿病
	胃	大腸	肝及び肝内胆管	気管、気管支及び肺							
全 国	28.2	21	19	42.4	49.5	74.2	46	8.3	9.1	11.2	6.7
徳島県	25.7	21.3	21	42.9	45.7	70	48.5	12.3	10.5	14.8	7.2
全国順位	36	14	14	19	32	34	14	2	6	4	18

(女性)

	悪性新生物				脳血管疾患	心疾患	肺炎	腎不全	慢性閉塞性肺疾患	肝疾患	糖尿病
	胃	大腸	肝及び肝内胆管	気管、気管支及び肺							
全 国	10.2	12.1	6.4	11.5	26.9	39.7	18.9	4.8	1.4	3.8	3.3
徳島県	9	11.7	7.3	8.1	24.1	36.6	20	5.5	1.6	5.9	5.2
全国順位	40	27	11	46	36	35	16	10	9	1	1

資料：平成22年 人口動態統計特殊報告

年齢構成を調整した年齢調整死亡率を見ますと、男性では、腎不全12.3（全国2位）、慢性閉塞性肺疾患10.5（全国6位）、肝疾患14.8（全国4位）等が全国平均を上回り、全国順位も高い水準となっています。逆に脳血管疾患45.7（全国32位）や心疾患70（全国34位）等は全国平均を下回っています。

女性では、腎不全4.8（全国10位）、慢性閉塞性肺疾患1.6（全国9位）、肝疾患5.9（全国1位）、糖尿病5.2（全国1位）等が全国平均を上回り、全国順位も高い水準となっています。逆に悪性新生物（胃）9（全国順位40位）、悪性新生物（気管、気管支及び肺）8.1（全国46位）、脳血管疾患24.1（全国36位）、心疾患36.3（全国35位）等は全国平均を下回っています。

## 2 受療状況

平成23年に行われた患者調査によると、徳島県内の1日あたり推計患者数は入院患者が1万3,300人、外来患者が5万1,000人となっています。施設の種類の別構成割合をみると、入院患者の91.0%が病院で受療している一方、外来患者については56.9%が診療所で受療しています。

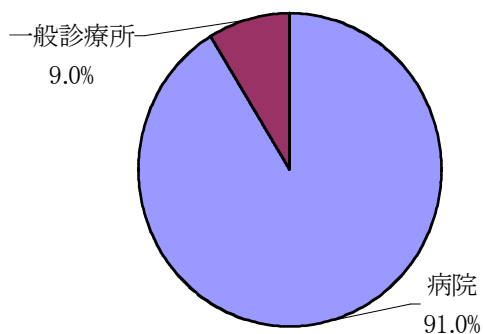
### 徳島県の推計患者数、構成割合、受療率（施設の種類の別）

平成23年10月

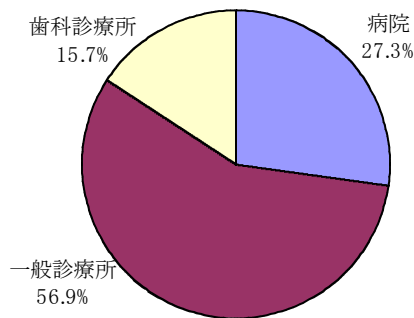
区分	推計患者数(千人)		構成割合		受療率(人口10万対)	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
総数	13.3	51.0	100.0%	100.0%	1,708	6,535
病院	12.1	13.9	91.0%	27.3%	1,552	1,788
一般診療所	1.2	29.0	9.0%	56.9%	155	3,719
歯科診療所	—	8.0	—	15.7%	—	1,031

資料：患者調査(厚生労働省)

#### 徳島県の推計患者の構成割合（入院）



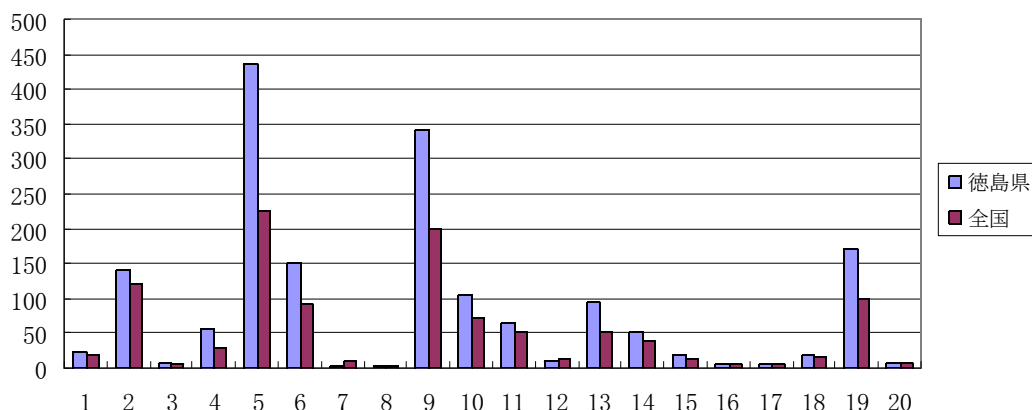
#### 徳島県の推計患者の構成割合（外来）



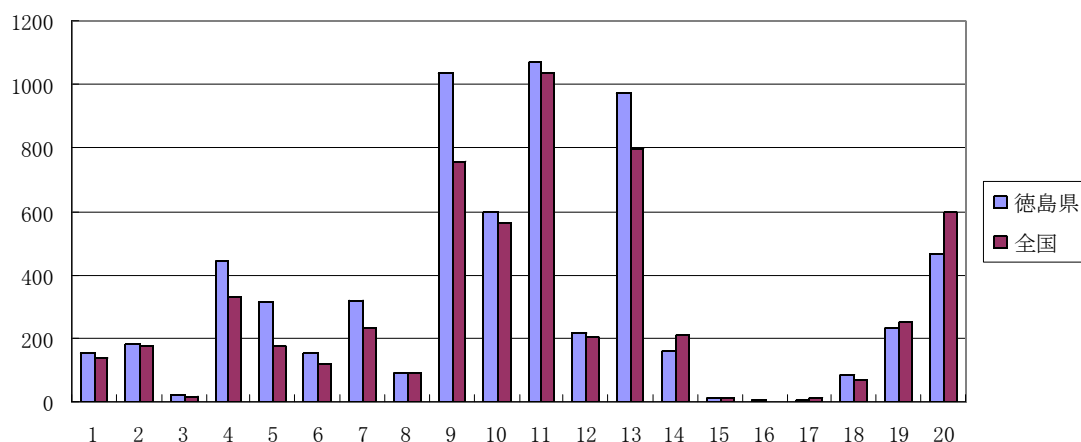
入院患者の受療率（人口10万対）は、ほとんどの傷病において全国の値を上回っています。特に傷病大分類でいう精神及び行動の障害、循環器系の疾患においてその傾向が顕著となっています。

外来患者についても、多くの傷病において全国よりも高い受療率となっており、全国と同様に循環器系、消化器系の疾患、関節症や脊柱障害といった筋骨格系及び結合組織の疾患の受療率が高くなっています。

主要傷病受療率(人口10万対)入院



主要傷病別受療率(人口10万対)外来



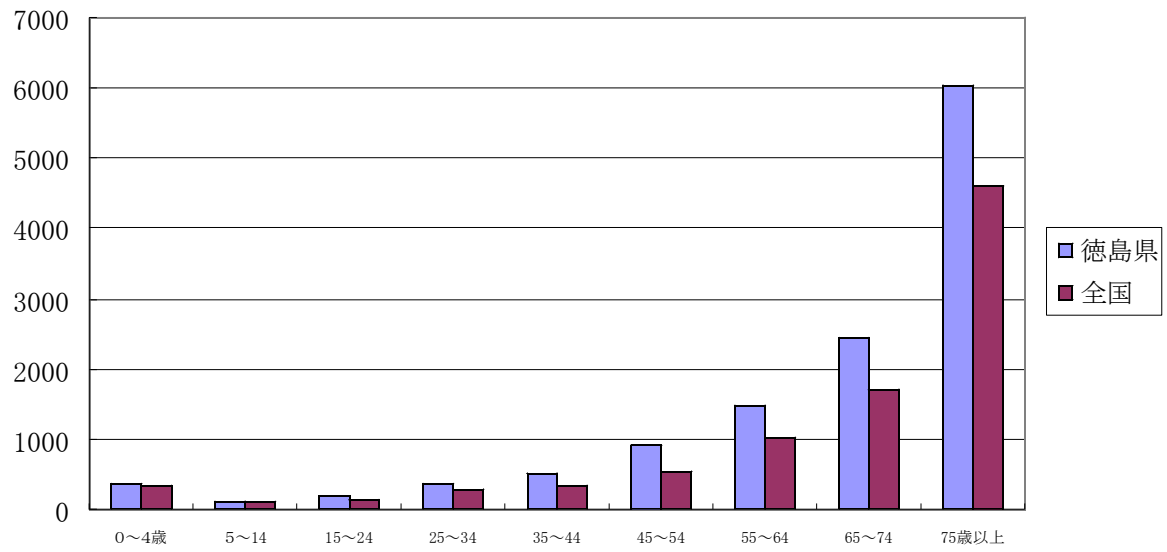
- |                        |                                    |
|------------------------|------------------------------------|
| 1 感染症及び寄生虫症            | 11 消化器系の疾患                         |
| 2 新生物                  | 12 皮膚及び皮下組織の疾患                     |
| 3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | 13 筋骨格系及び結合組織の疾患                   |
| 4 内分泌、栄養及び代謝疾患         | 14 腎尿路生殖器系の疾患                      |
| 5 精神及び行動の障害            | 15 妊娠、分娩及び産じょく                     |
| 6 神経系の疾患               | 16 周産期に発生した病態                      |
| 7 眼及び付属器の疾患            | 17 先天奇形、変形及び染色体異常                  |
| 8 耳及び乳様突起の疾患           | 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| 9 循環器系の疾患              | 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響                |
| 10 呼吸器系の疾患             | 20 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用        |

資料：平成23年 患者調査（厚生労働省）

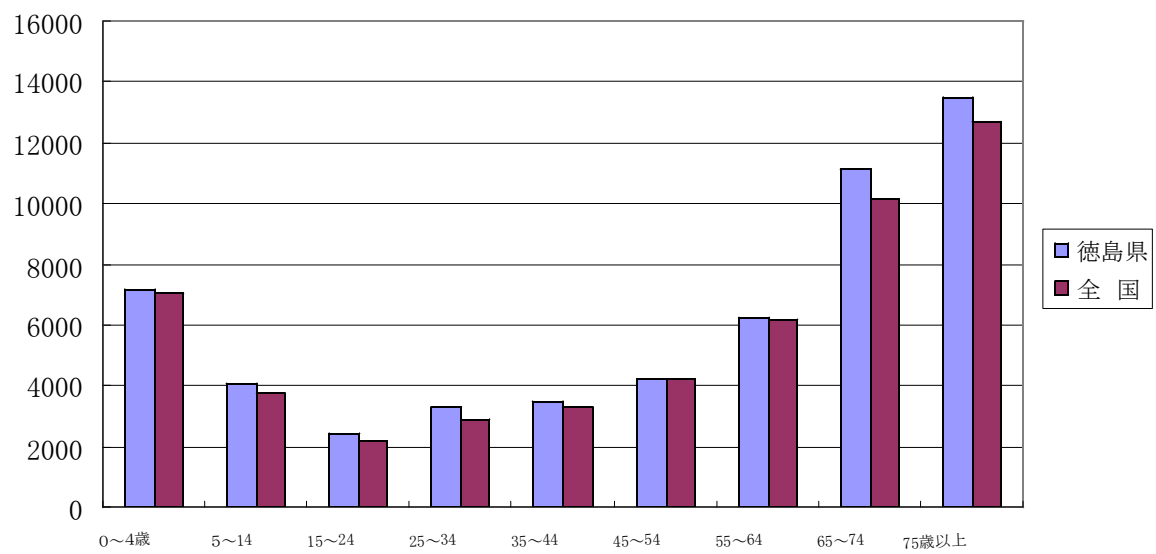
年齢別に受療率をみると、まず、入院患者については、全ての年齢層において全国平均の受療率（以下「全国値」という。）を上回っており、特に45歳以降の年齢層において全国値との差が大きくなっています。

外来患者については、45歳～54歳代のみが、若干全国値を下回っているものの、その他全ての年齢層において全国値を上回っています。

年齢階級別受療率(人口10万対)入院



年齢階級別受療率(人口10万対)外来



資料：平成23年 患者調査（厚生労働省）

### 第3節 保健医療施設の状況

#### 1 病院、診療所数の年次推移

本県の病院、診療所数を年次別にみると、病院数は、平成2年の141箇所をピークに減少しており、平成23年には114箇所となっています。また、一般診療所のうち、有床診療所についても平成5年の323箇所をピークに減少しており、平成23年は146箇所となっています。一方、無床診療所は、増加傾向が続いたものの、平成23年は減に転じ613箇所となっています。また、歯科診療所についても、増加傾向から減に転じ、平成23年は425箇所となっています。

#### 医療施設数の年次推移

年次	全 国			徳 島 県		
	病院	一般診療所	歯科診療所	病院	一般診療所	歯科診療所
昭和62年	9,841	79,134	48,300	134	694	297
平成 2年	10,096	80,852	52,216	141	701	328
平成 5年	9,844	84,128	55,906	137	715	365
平成 8年	9,490	87,909	59,357	132	728	392
平成11年	9,286	91,500	62,484	134	779	404
平成14年	9,187	94,819	65,073	130	776	415
平成17年	9,026	97,442	66,732	123	783	427
平成18年	8,943	98,609	67,392	122	791	433
平成19年	8,862	99,532	67,798	120	800	432
平成20年	8,794	99,083	67,779	119	778	432
平成21年	8,739	99,635	68,097	119	783	434
平成22年	8,670	99,824	68,384	117	796	440
平成23年	8,605	99,547	68,156	114	759	425

#### 一般診療所数の有床、無床別の年次推移

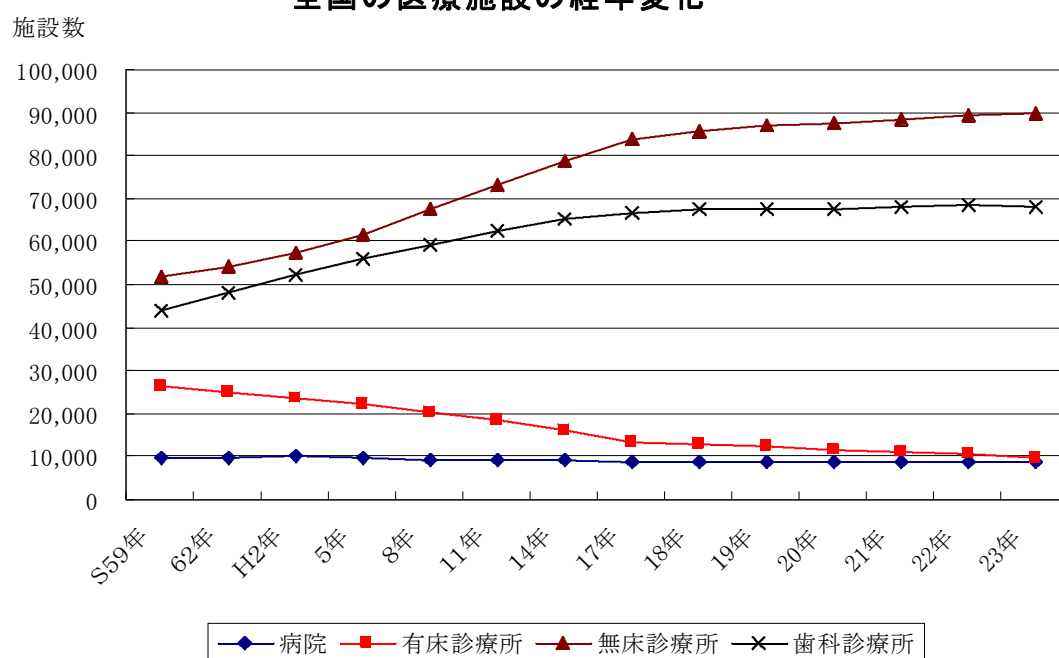
年次	全 国		徳 島 県	
	有床診療所	無床診療所	有床診療所	無床診療所
昭和62年	24,975	54,159	301	393
平成 2年	23,589	57,263	313	388
平成 5年	22,383	61,745	323	392
平成 8年	20,452	67,457	314	414
平成11年	18,487	73,013	285	494
平成14年	16,178	78,641	238	538
平成17年	13,477	83,965	192	591
平成18年	12,858	85,751	189	602
平成19年	12,399	87,133	180	620
平成20年	11,500	87,583	166	612
平成21年	11,072	88,563	165	618
平成22年	10,620	89,204	164	632
平成23年	9,934	89,613	146	613

資料：医療施設調査（厚生労働省）

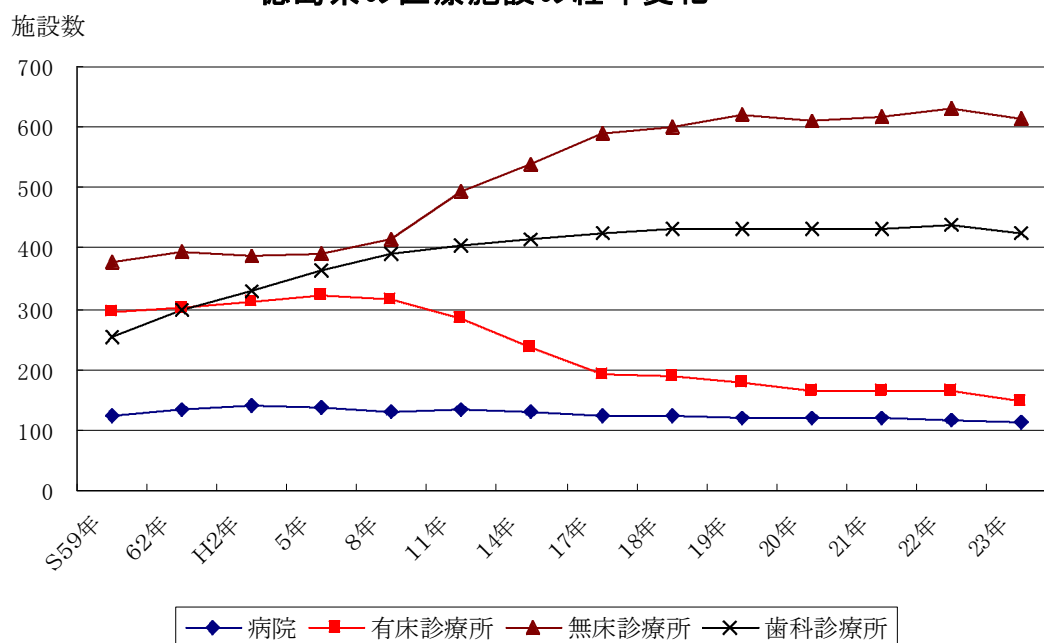
全国的な動向についてみると、病院数は平成2年の10,096箇所をピークに減少しています。一般診療所については、有床診療所の減少が続いている反面、無床診療所は増加傾向が続いています。また、歯科診療所についても、昭和53年以降、増加傾向が続いており、本県の動向は概ね全国の動向と同様の傾向にあるといえます。



## 全国の医療施設の経年変化



## 徳島県の医療施設の経年変化



## 2 本県の医療施設の状況

本県は、病院、診療所ともその施設数も病床数も全国的に比較すると上位に位置しています。  
本県の病院総数は、平成23年10月現在、114施設で、人口10万人当たり14.6と全国平均の6.7を大きく上回り、全国第3位（第1位は高知県18.1、第2位は鹿児島県15.6）となっています。

### 病 院 施 設 の 状 況

（平成23年10月1日現在）

区 分	病 院 施 設 数				人口10万人対 病院施設数
		一般病院	精神科病院	結核療養所	
全 国	8,605	7,528	1,076	1	6.7
徳 島 県	114	99	15	—	14.6
東 部Ⅰ	66	56	10	—	14.4
東 部Ⅱ	7	7	—	—	8.4
南 部Ⅰ	16	15	1	—	12.0
南 部Ⅱ	5	4	1	—	21.7
西 部Ⅰ	11	10	1	—	25.6
西 部Ⅱ	9	7	2	—	20.0

資料：医療施設調査(厚生労働省)

本県の病院の病床数は、平成23年10月現在、総数15,029床で人口10万人当たり1,926.8床と全国平均の1,238.7床を大きく上回り全国第5位となっています（第1位は高知県、第2位は鹿児島県）。

そのうち、一般病床は6,719床で人口10万人当たり861.4床と全国平均の703.7床を上回り全国第16位となっています（第1位は高知、第2位は大分県、第3位は北海道）。

療養病床は、4,257床で人口10万人当たり545.8床と全国平均の258.3床を大きく上回り全国第4位となっています（第1位は高知県、第2位は山口県）。

また、精神病床は、3,978床で人口10万人当たり510.0床と全国平均の269.2床を大きく上回り全国第5位となっています（第1位は鹿児島県、第2位は長崎県、第3位は宮崎県）。

結核病床は、59床で人口10万人当たり7.6床と全国平均の6.0床を上回っています。

感染症病床は、3病院16床（徳島大学病院8床、徳島県立海部病院4床、徳島県立三好病院4床）となっています。

なお、本県の病院の病床の特徴は次のとおりです。

一般病床は、県下全体でみれば基準病床数を大きく上回る病床がありますが、東部Ⅰ保健医療圏に集中しており、南部、西部は過剰の度合いが低くなっています。

また、約3割にあたる28.3%の病床が療養病床となっていますが、南部Ⅱ保健医療圏については、病院における療養病床がない状態が続いています。

精神病床についても、県下全体でみると基準病床数を大きく上回っています。

感染症病床は、感染症予防計画に基づき、県下を3圏域に分け、第二種感染症病床が県下で14床確保されています。

結核病床は、県下全体でみると基準病床数を上回る病床があります。

## 病院病床の状況

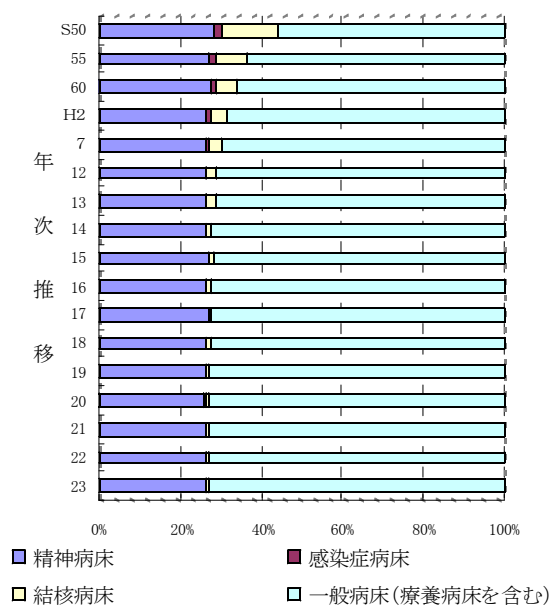
(平成23年10月1日現在)

区 分	病院病床数					
	合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
全 国	1,583,079	899,385	330,167	344,047	7,681	1,793
徳 島 県	15,029	6,719	4,257	3,978	59	16
東 部 I	9,281	3,508	2,856	2,879	30	8
東 部 II	1,244	834	410	-	-	-
南 部 I	2,039	1,390	505	139	5	-
南 部 II	379	227	-	144	4	4
西 部 I	1,005	342	187	476	-	-
西 部 II	1,081	418	299	340	20	4

資料:「医療施設調査」(厚生労働省)

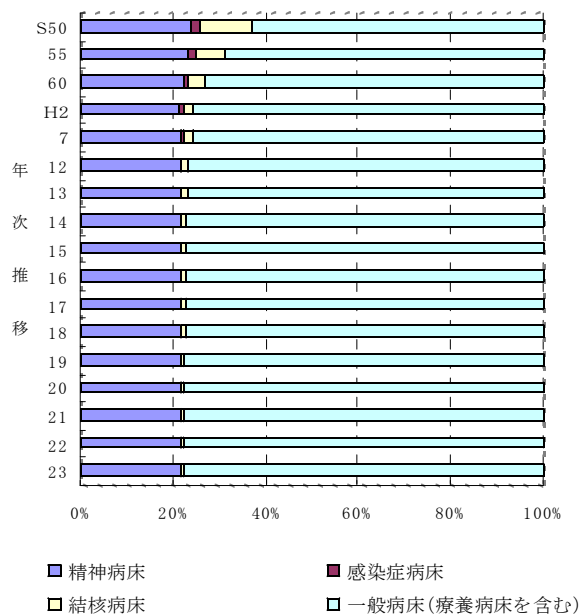
### 病院病床の構成割合の年次推移

#### 徳 島 県



### 病院病床の構成割合の年次推移

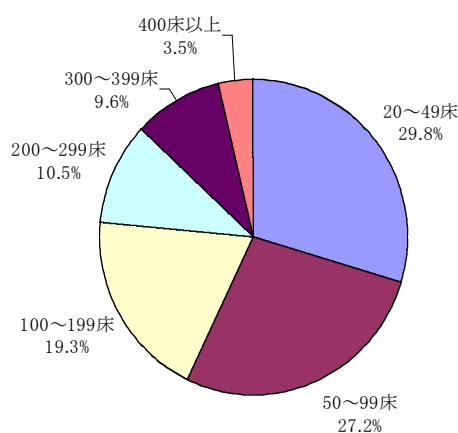
#### 全 国



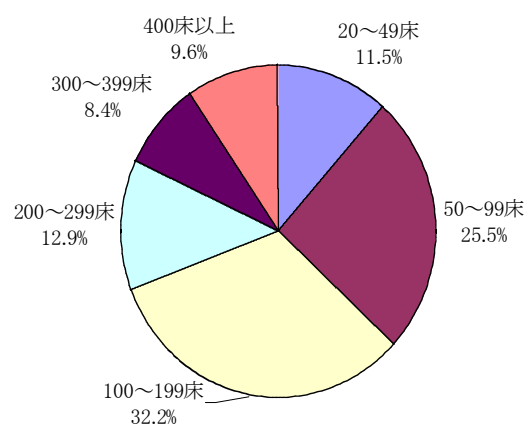
また、本県の病院については、20～49床規模の病院が29.8%、50～99床規模の病院が27.2%で、20～99床の規模の病院が全体の57%を占めています。

全国では、20～49床規模の病院が11.5%、50～99床規模の病院が25.5%であり、20～99床の規模の病院は全体の37%となっています。また、400床以上規模の病院が、全国が全体の9.6%に対し、本県では3.5%であることから、全国に比べ本県では、病床規模の小さい病院が多いことが分かります。

病床規模別病院割合(徳島県)



病床規模別病院割合(全国)



また、本県の病床の平均在院日数は、平成22年1年間の調査で全病床で45.7日と、全国平均の32.5日と比べ大幅に長く、全国で5番目に長くなっています（1番目は高知県、2番目は佐賀県、3番目は鹿児島県）。病床種別では、精神病床が444.7日と最も長く、全国平均の301.0日を大きく上回り全国一長くなっています（2番目は鹿児島県、3番目は栃木県、大分県）。

また、一般病床は20.4日と全国平均の18.2日を上回り、全国で9番目となっています（1番目は高知県、2番目は和歌山県、3番目は佐賀県）。

療養病床は159.4日と全国平均の176.4日より短くなっており、全国で29番目となっています（1番目は富山県、2番目は山口県、3番目は北海道）。

一方、療養病床のうち介護療養病床は、317.8日と全国平均の300.2日より長くなっており、全国で17番目となっています（1番目は秋田県、2番目は栃木県、3番目は山口県）。

## 平均在院日数の状況

(平成22年年間)

区 分	総数	一 般	療 養		精 神	結 核	感 染 症
				うち介護療養			
全 国	32.5	18.2	176.4	300.2	301.0	71.5	10.1
徳 島 県	45.7	20.4	159.4	317.8	444.7	60.0	—

資料：「病院報告」(厚生労働省)

本県の一般診療所総数は、平成23年10月現在、759施設で人口10万人当たり97.3と全国平均の77.9を上回り全国第4位となっています（第1位は和歌山県、第2位は島根県）。

そのうち、無床診療所は、613施設で人口10万人当たり78.6と全国平均の70.1を上回り全国第10位となっています（第1位は島根県、第2位は和歌山県）。また、有床診療所は、146施設で人口10万人当たり18.7と全国平均の7.8を大きく上回り全国第7位となっています（第1位は大分県、第2位は鹿児島県）。

一般診療所の病床数については、2,390床で人口10万人当たり306.4と全国平均の101.2を大きく上回り全国第6位となっています（第1位は鹿児島県、第2位は大分県）。

また、歯科診療所は、425施設で人口10万人当たり54.5と全国平均の53.3を若干上回っており、全国順位は第6位となっています（第1位は東京都で80.1、第2位は大阪府の61.4）。

## 診療所施設及び病床の状況

(平成23年10月1日現在)

区 分	一般診療所施設数			左の病床数	歯科診療所
		一般診療所 (無床)	一般診療所 (有床)		
全 国	99,547	89,613	9,934	129,366	68,156
徳 島 県	759	613	146	2,390	425
東 部Ⅰ	468	365	103	1,689	271
東 部Ⅱ	83	71	12	209	44
南 部Ⅰ	105	93	12	188	56
南 部Ⅱ	22	22	0	0	12
西 部Ⅰ	42	32	10	152	21
西 部Ⅱ	39	30	9	152	21

資料：「医療施設調査」(厚生労働省)

本県の療養病床については、病院、有床診療所合わせて101施設で、4,579床が整備されています。

療養病床数を人口10万人あたりでみると、病院は548.8と全国第4位（第1位は高知県、第2位は山口県）。有床診療所では41.3で全国第7位（第1位は鹿児島県、第2位は長崎県）となっています。

## 療 養 病 床 の 状 況

(平成23年10月1日現在)

区 分	病 院		有床診療所施設数	
	施設数	病床数	施設数	病床数
全 国	3,920	330,167	1,385	14,150
徳 島 県	64	4,257	37	322
東 部Ⅰ	42	2,856	23	145
東 部Ⅱ	4	410	3	26
南 部Ⅰ	9	505	7	93
南 部Ⅱ	0	0	0	0
西 部Ⅰ	5	187	2	30
西 部Ⅱ	4	299	2	28

資料：「医療施設調査」(厚生労働省)

### 3 介護保険施設の状況

本県の介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）については、平成23年10月時点で60施設・3,477人分の整備がなされており、全国的には、「介護サービス施設・事業所調査」（厚生労働省）によれば、平成22年10月時点で全国第18位の整備水準となっています。

また、介護老人保健施設についても、平成23年10月で52施設・4,109人分の整備がなされ、平成22年10月時点では全国第2位と高い整備水準となっています。

介護療養型医療施設は、療養病床のうち介護保険のサービスを提供する施設として県の指定を受けた病床のことであり、平成23年10月時点で56施設・1,464人分の整備がなされ、平成22年10月時点では全国第4位の整備水準となっています。

### 介護保険施設の整備状況

各年10月1日

		H18	H19	H20	H21	H22	H23
介護老人福祉施設	施設数	58	59	59	60	60	60
	定員数	3,396	3,447	3,462	3,477	3,477	3,477
介護老人保健施設	施設数	50	50	50	50	51	52
	定員数	4,025	4,025	4,025	4,023	4,069	4,109
介護療養型医療施設	施設数	82	76	68	61	58	56
	定員数	2,001	1,858	1,663	1,511	1,481	1,464

資料：徳島県長寿保険課